

## 【58用 語】

【折柄…おりから】ちようどその時、ちようどよい時、折しも

【楮…こうぞ】クワ科の落葉灌木、その樹皮は和紙製造の原料

## 【58解 説】

群馬県の自然災害としては、火山噴火や地震、台風による大風雨や洪水などが想定されるが、このほか雷雨に伴って発生する雹（ひょう）があり、時に田畑の農作物などに大きな被害をもたらした。『群馬県気象災害史』によると、天明八年（一七八八）から昭和五十六年（一九八一）までに二一二回に及ぶ降雹記録があり、明治以降はほぼ毎年のように雹害があったことが知られている。

本文書は明治三十三年（一九〇〇）、県の農商部が県内で発生した降灰や害虫等による農事被害報告を綴った行政文書の一部で、多野郡美原村（現、藤岡市）の黒澤村長が同年七月十三日、古荘嘉門県知事に届け出た降雹被害報告である。これによれば、七月九日午後九時頃から暴風雨が吹き荒れ、堅氷（雹）が降り農作物・桑・楮などに甚大な被害を与えたことを記している。なお、この時の降雹は美原村地内だけでなく、北甘楽郡や群馬郡内の町村へも及び、局地的とはいえ、群馬県西部の広い範囲に大きな被害を与えており、その被害状況については各郡長から県へ、県からさらに国の農商務大臣へ報告されていたことが他の行政文書からうかがうことができる。